平成２６年度　第１回　社会教育委員会議・公民館運営審議会会議録

日　　時：平成２６年７月１４日（月）午前１０時～１１時３０分
場　　所：鳥取市文化センター　２階　大会議室
出席委員：＜委　員＞徳田委員、村山委員、森田委員、川木委員、米沢委員、土井委員、外川委員、田中秋年委員、伊藤委員、田中豊朗委員、清水委員、大西委員
（欠席：栗岡委員、中嶋委員、松本委員、稲垣委員、懸樋委員、吉澤委員、土橋委員、田渕委員）
＜事務局＞北村課長（生涯学習課）、吉田課長補佐（同左）、久田主査兼青少年係長（同左）田中指導主事（学校教育課）

※発言内容等について、事務局で一部加筆訂正しています。

１　開　会（進行　北村生涯学習課長）午前１０時

２　会長あいさつ

３　協議事項（進行　土井会長）

これ以降、土井会長が議長として進行した。

（１）「子どもの育ちを考える」
全国学力・学習状況調査から見た鳥取市の子どもたちの現状について
（事務局説明）

〔議　長〕　今の話を聴いて、感想などないか。
〔委　員〕　学級委員や児童会がなくなっていたことは知らなかった。
〔事務局〕　１５～２０年前に、どの児童にも役割を持たせようという意図で学級委員が廃止されたようである。
〔委　員〕　子どもたちが地域活動にかなり参加しているデータがあったが、我々が普段地域での活動を見ている限り、そこまで参加しているのか、この数値は実態を表しているのか疑問に思う。特に中学生は見ない。
　また、鳥取県の子どもたちは学力には問題がなくとも、体力面で問題があるように聞いた。どのような取り組みがされているのか。
〔事務局〕　このアンケートは子どもたちが自分で書くもので、どの行事に、何回程度参加したか、などは問わない。数多くある地域行事の１つだけに参加して、「参加した」と回答している子どももいるだろう。
　体力の向上については、各学校で取り組まれているが、すぐには成

果が表れにくい。現在、小学校での課外体育は陸上と水泳のみを行い、その他の競技は社会体育が担っている。それぞれで努力はされている。

〔委　員〕　アンケートについて、住んでいる地域の行事への参加はかなりされているようだが、これは主体性のない参加の形だと思う。

地域社会を良くしようという項目の数値の低さは、大人たちの関心の低さを反映しているのではないか。子どもの頃から「公共」の意識を育む取り組みなども必要だろう。

〔委　員〕　データからは鳥取県の子どもたちの学力は相対的に高く、親の言うことを聞いて自学自習しているが、地域行事への参加は少ない、と結果が出されているが、地域活動や家庭学習と学力との相関率はたいへん低い。全国学力学習状況調査の結果については、さらに丁寧な検証をお願いしたい。

子どもたちの自主性を伸ばす項目については、学校への調査である。学校が子どもたちの自主性を伸ばす取り組みをどのように取り入れているのか、という調査との関係を検証する必要がある。

また、子どもたちが社会を良くしようと考えているのか、という項目について、文科省が行っている第３次とりまとめの人権教育の実施状況調査の方が明確だと思う。

〔事務局〕　このデータは全国学力学習状況調査結果の数値を示したものである。

授業で主体的な活動をどの程度やっているのか、問うデータについて、鳥取市でも高い数値が出ている。自分たちで主体的に調べ、発表することをさせようという教師の高い意識がある。子どもたちを対象とした主体的活動についても、近年上昇傾向にある。

〔委　員〕　子どもがいるのは、団地や新しい宅地ばかりで、昔からの集落には子どもがいない。また、公民館活動に参加している人も固定化されているように思う。

〔議　長〕　子ども会活動に関する調査の資料を見ていただきたい。子ども会活動について中心的に活躍されている方に、現状と期待の両面から調査を行ったものである。この調査からも、子どもたちの主体性が低く、それを大人たちも認識していることがわかる。

また、ジュニアリーダーの養成について非常に弱くなっていることも明らかとなっている。地域のなかで中核となっていく子どもたちをどのように育て、また研修していくのか。

さらに、生涯学習を受けた大人がその成果をどう活かすのか。子どもと親と学びをどのように集約させていくのか、この点に注目すると、

地域も豊かになっていくように思う。

ポイントとして小委員会で出たことを報告する。まず、異年齢集団をどう育てるのか。地域のノウハウをもつ人をどのように子どもたちと関わらせるのか。中学生を中心とするリーダー養成のシステムをどのようにつくりあげていくのか。地域の若い親たちをどのように地域に根付かせるのか。学んだことを活かす場をどのように提供するのか。

地域の大人と子どもとの関わり、親と子どもとの関わり、生涯学習を受けている人や地域の人材と子どもとの関わり、それぞれを包括的に捉える。相互の関係によって、地域の活性化を図ることができるのではないか。現状として、どこが弱いのか。時間のない親たちが地域行事を行う際に、子どもたちはジュニアリーダーを中心にどう関わっていくのか、そこで重要となるジュニアリーダーをどのように養成するのか、という点が論点になると考えている。

〔委　員〕　今の５点の観点からみると、提言活動のメインの提言となるものはなにか。

〔議　長〕　子どもたちを中心とした社会教育・公民館活動をいかに活性化させられるのか、という点だろう。

〔委　員〕　まず、子ども会や地域行事に関する鳥取市の子どもたちへのアンケートや意識調査などの情報がほしい。子どもたちがどう考え、なにを求めているのか。

また、これまで学校へ保護者や地域住民が行くことはあったが、学校が公民館など地域へ出ていくことが十分でなかったように思う。学校教員は多忙ながら、地域行事への参加も考えていただきたい。

３点目に、大学生と地域との関わりも活用しながら進めていきたい。

現在、ボランティアなどで活躍されている方はもともとＰＴＡなどで活動していた人が多いように思う。しかし、都市部ではＰＴＡに入らない、参加しないという人がどんどん増え、ＰＴＡ活動が活性化していない状況が広がっている。今、学校と地域とＰＴＡが結びついていく試みはたいへん重要に思う。

〔事務局〕　子どもたちへの地域行事や子ども会に関する調査は今のところない。

〔議　長〕　学校が地域に関与することは非常に重要に思う。今、いろいろな取り組みが行われている。

〔委　員〕　昔と比べて、学校は地域を受け入れ、地域に出てきているように思う。重要なことは、その自治会が熱意をもって活動しているかによると考える。自治会が地域を変え、子どもたちを変えるという意識を

持つことが必要である。

〔委　員〕　生涯学習は個人の学びに対する想いによって行われているものであって、地域に成果を還元するといった仕組みにはなっていない。また、今の若い人は生活に必死である。人口の高い割合を占める高齢者が、自らのもつ知識や技能を地域に還元することが必要である。

〔議　長〕　その問題点は明らかであるが、そのシステムをどのように提言ができるだろうか。

〔委　員〕　用瀬では平成３年から生涯学習推進協議会を立ち上げ、従来行われてきた様々な活動をまとめ、「ふれあい祭り」という成果を発表する場を設けた。子どもとの関わりに関しては、学習の成果が見えにくいので、生涯学習カレッジを設け、子どもたちに手帳を持たせて、活動に参加した際にポイントを付与する取り組みを行った。これは大人へは定着したが、子どもにはなかなか根付かない。

〔委　員〕　都会と地域では、土曜の過ごし方についても大きく違う。都会のある地域では、土曜日に学校の空き教室で地域の大人が工作や遊びを教える場があたりまえにあった。

〔委　員〕　地域の様々な団体が月に１回集まって情報共有しており、うまくいっているように思っている。地域行事やスポーツ活動にも子どもの参加は多い。

〔委　員〕　福部では去年新たに子ども会を立ち上げ、模索しながら活動している。地域の様々な会合では、行事について子どもたちを交えた形で進めてもらいたいとお願いしている。しかし、「子どもを出させてまでしなくともよい」といった意見がある。まず、大人や親への教育が必要に感じている。親と地域との関わりが課題と捉えている。

〔委　員〕　毎年、「わが地区のいちおし！」を頂いてみているが、そこで十分に活動している地域が、十分な関係性を築いているように思う。そのような他地域の取り組みを参考にしていきたい。

　また、生涯学習の前提として学社連携が長らく課題として挙げられていた。たとえば、数多く行われている様々な行事をすべて一覧にまとめて子どもたちに提示して参加を促していくような取り組みも行ってきた。保護者と地域との関係について、学校が間に入ることは有効ではないか。

　うまくいっているところの事例を共有して、それをモデルの形として出していければと思っている。

〔委　員〕　ジュニアリーダーに関して、たしかに以前ほど子どもたちに積極性が見られなくなった。昨年、運動会の役員を中学生にしてもらった

ことがあり、学校の協力を得てその日はすべての部活を休みにし、多くの子どもたちに参加してもらい、地域住民からもたいへん好評であった。子どもたちの顔が地域に見えることが大切に思う。

〔議　長〕　スケジュールなど全体が見える構造のようなものをつくっていかなければならないと思う。また、先ほど提示してもらったケースについても、子どもたちが活躍する場を設けることが重要だろう。

そして、子どもたちが場にでることには価値があるものだと親に理解してもらうことがポイントだと考える。

地域に出ることは価値があり、地域で育てた子どもを学校に送り込むことによって、学校もレベルアップするだろうと期待している。

〔委　員〕　自治会は、子ども会や交通安全運動、運動会、敬老会などで子どもと関わる機会は多い。

〔委　員〕　佐治において、旧市内の小学生の民泊を受け入れている。今年は７００名ほどが参加した。全く知らない家に泊めてもらい、生活するという体験の価値は大きい。また林業体験や座禅体験、魚のつかみ取り、さじ谷ばなしや郷土料理なども実施している。郷土や自然に対する想いを育む事業だと考えている。できれば、これを中学生へ広めていきたい。

〔委　員〕　今までもジュニアリーダーの育成は大きな目標であったが、役割を与えて養成していくような、周りから認められてリーダーとしての資質を養うような取り組みが必要であろう。アンケートにおいてもジュニアリーダー養成の必要性が訴えられていることは一つの結論だと考える。年齢縦割りの活動や学級委員などを施策として進めてもいいかもしれない。

〔議　長〕　現在も様々な団体でリーダー養成はされているが、弱いのかもしれない。ボランティア活動などのみでは不十分で、行政としての後押しなどの必要も感じている。

〔委　員〕　日置地区では、城北地区との交流を進めており、３年目となる。今年も夏休みに親子事業を行う。それらを通して、学校やＰＴＡと地域との話し合いの場がもっとあった方がよいように感じている。

ジュニアリーダー養成について、非常によいことだと思うが、山村部で子どもの数が少ない地域では、リーダーになってほしいような子どもは部活動でも中心的な役割を担っており、人材が集まれないという課題がある。

〔委　員〕　遷喬地区では、商店を営んでいる家庭が多く、子どもたちが学校に集うことが多い。そこに地域の大人が入ることが行われているよう

で、比較的うまくいっているように思う。

子どもに強制することがないよう、気を付けている。

〔委　員〕　ボランティアについて自分の地区では、行事の運営に携わるボランティアを募り、役員の負担を軽減するとともに、新たな地域とのつながりをつくるような取り組みを行っている。

〔議　長〕　ボランティア参加を推進するということは、まさに「場の提供」となるだろう。

この議論を取りまとめるにあたり、課題としては、ジュニアリーダーの養成、学んだ人が活動できる場の提供が挙げられる。ここからもう一歩踏み込んで、これら課題に対し具体的にどのように取り組むことができるのか、もう一度議論をする必要があるだろうか。

〔事務局〕　もう一度小委員会を開催し、今日の議論をふまえて肉付けを行い、全体会議でご意見をいただくという形にしたい。

〔議　長〕　今日の会議では、様々な意見をいただき課題は明確になってきたように思う。ここから踏み込んで、提言という形へまとめていくために小委員会で議論していただきたい。

（２）その他

なし

４　その他

なし

５　閉　会　午前１１時３０分